

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000146		
法人名	有限会社ヘルパーはうす		
事業所名	グループホーム まぶる「いろは館」		
所在地	〒028-1352 岩手県下閉伊郡山田町飯岡3-14-1		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスの影響により、外出自粛や面会制限等ある中で、ホーム内年間行事に力を入れて、手作りで演出など工夫し、入所者・職員共に楽しく生活しています。また、旬の食材を取入れ季節感を感じられる食事の提供や、入所者の皆さんと日々の会話等で思いをくみ取り、気持ちに寄り添い、一日一日を楽しく過ごして頂ける様心掛け支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山田駅から自動車で5分程の山手の所にあり、街が一望でき山田湾も見える高台の住宅地に建っている。介護においては、認知症だけでなく、生立ちや性格などを観ながら、介護していかねばならないとの思いの支援を心掛けており、一人一人を大事にし、その人なりを理解しながら支援するようにしている。入居者とは、選択肢を提供し答えやすいように言葉掛けをしているほか、言葉だけではなく表情や仕草からも思いを察するように心がけている。また、定期的実施している入居者アンケートやモニタリングなどでも思いや意向を把握しており、それらを受けて運営に活かしたり、家族に來所していただくなど、思いや意向に沿った支援に努めている。現在、コロナ禍で外出を控えている中であっても、天気の良い日には、デッキに出て外気浴をしたり、本人の思いに沿って、自宅や出身地のお祭りを見に行っている。外出が少ない分、1日1回でも「笑い」が出るように楽しめるよう工夫している。なお一層、提供するサービスの質の向上を意識した取り組みを、重ねていくことが期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いろはの理念」を掲示している。毎朝申し送り時職員唱和し、認知症介護のいろはの支援に心掛けている。	理念は、開所時に管理者・職員が話し合い策定している。職員が目にする場所に掲示したり、毎朝の申し送り時に唱和し職員間の共有と意識化を図り、日々の介護に当たっては、理念の実践を意識しながら取り組んでいる。開所して3年目となり、理念の見直しを考えている。	理念の見直しに当たっては、日々の介護に理念が反映できているのかの振り返りを行ないながら、事業所が大切にしたいものが何かを再確認しながら進められることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所して3年目、感染防止策にて交流機会は少ない。地元の祭りで慰問して頂いたり、運営推進会議開催時にも地域の方々に参加して頂いたりと協力を得ている。	コロナ禍で、地域との交流の機会は少ないが、事業所の下の広場でのバイオリン演奏会をテラスから鑑賞し、お祭りでは神楽の団体の訪問を受けている。秋には職場体験と福祉体験とで2回に分けて3名の中学生を受け入れている。事業所では、コロナ禍が収束したら、地域との交流をこれまで以上に広めたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や認知症セミナー開催時の包括支援センターの作品協力など行い、地域の方々へ理解の場が増えてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、入所者の身体状況や施設の問題等について報告し、家族・行政・地域・同業者・地権者などの幅広い意見や助言を頂き話し、サービスの向上に努めている。	会議は、書面開催と集合開催で行っており、「身体拘束廃止に関する委員会」も兼ねている。内容は、入居者の状況や活動の報告のほかに、身体拘束の廃止に関する事項も併せて協議している。委員からは、入居者の力を活かした取り組みに高い評価を得ており、職員に伝え継続して実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂く事で、事業所の現状を理解していただき、助言や情報等のやり取りが出来る関係性が出来ている。	入居申し込みや要介護認定申請の代行、ケア会議などの際に、相談や情報交換を行っている。町主催の「認知症セミナー」では、入居者の作品を展示している。また、行政との連携して、コロナ禍にあって感染に備え、事業所間の相互支援に取り組んでいる。	

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員個々に入所者の行動を把握し、行動を共にして安心・安全に努めている。感染状況を勘案しながら、玄関の施錠は適宜行い感染経路を遮断している。また、身体拘束について自己点検を行い、職員の気づきに繋げている。	指針とマニュアルを整備し、身体拘束廃止に関する委員会を兼ねて運営推進会議を開催し、勉強会や身体拘束についての自己点検を行い、身体拘束をしない支援に努めている。歩行不安定での転倒リスクや帰宅願望での徘徊などリスクについても素直に家族と話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会を行い、日々の介護が虐待ではないか？と考え、意識付け出来るよう取り組んでいる。言葉遣いやケアにおいても慣れ合いにならない様、職員間やミーティングで注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は多くはないが、成年後見制度を利用している入所者もいるので、実践的に学べる機会もある。職域にて個人差はあるものの利用している入所者の状況など職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族に対して契約時に説明を行い理解して頂いている。現状の介護だけでなく、今後考えられる身体低下・事故等あらゆる事を予測し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者の日々の会話やモニタリングで意見や要望を取り入れ、毎年入所者・家族へアンケートを行い、何を望んでいるのか把握し運営に反映させている。	入居者との日々の会話やモニタリング、アンケートを通して、意見や思いを把握し、活動や外出の支援などに活かしている。家族の意見や要望は、面会時や通院、家族アンケートなど、様々な場面で把握するよう努め、職員ミーティングや申し送りで報告し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りやミーティング時、出された問題に対し話し合いをしたり、業務の見直しを行っている。	毎日の申し送りや月1回のミーティングのほか、業務中にも随時職員の意見を聴いている。また、職員アンケートや個人面談でも要望・提案を受け、勤務調整や備品の購入などを行い、職員と一緒によりよい支援に向けた改善を行っている。	

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話や身体面・個人の状況・意向も含め、勤務状況の把握をし職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修へ参加する機会は少ないが、ホーム内の勉強会で資料を用いて学んだり、再認識出来る様取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議には町内のGHIに参加して頂いたり、コロナ感染対策での町内の事業者と見識者の意見を交換し取り組みを進めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の調査で本人の要望や不安事など傾聴し、入所前にホームの様子を見学に来て頂いたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や面会時、アンケートなどで家族の不安や要望等に耳を傾け、話し合いなどで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に得た情報を職員間で共有し、家族や居宅ケアマネにも情報を得て、踏まえた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の得意とする事で、役割作りを構築し一緒に行うことで支えあう関係作りに努めている。		

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、通院付き添いや外出・面会を要請し家族にも役割をお願いしている。また、家族と面会や通院報告等で連絡を取り合い、支えあえる関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの方が訪れる事は少ない、可能な限り出身地のドライブや理美容室の訪問をして頂き、地域との関係維持出来るよう支援している。	地域社会との関係性は、入居前と入居後に本人・家族から聞き取りし、親戚や近所との関係のおおよそを把握している。入居者が以前利用していた理髪店や美容院に来ていただいており、孫嫁が美容師で面会も兼ね訪問している方もいる。コロナ禍の感染状況を考慮しながら家族等との面会を調整している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性・女性と入所者が居る中で、生活空間のホールでお互いがコミュニケーションをとれる様、日課や活動を通じて支援している。難聴や弱視の方にも職員が介し寄り添い疎通の支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族においても、退去後の様子を伺ったり、相談にも応じている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけではなく表情や仕草を察するように心がけている。生活歴の聞き取りや生活の中で得意不得意を把握し、本人や家族の望む暮らしに近づけるよう努めている。	入居者全員が言葉で意思表示できる。職員は、定期的実施する入居者アンケートやモニタリング、或いは日々の会話の中などの様々な場面で思いや意向を把握している。答えやすいように選択肢を用意したり、表情や仕草から察するように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等の質問事項記入の上提出をお願いしている他、家族来所持の聞き取り、入所前の担当ケアマネや町地域包括支援センターから情報を得ている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りでの報告、バイタル記録、業務日誌から状態を把握している。また、毎月のミーティングで話し合いにより確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員で入所者の担当を決め、3か月ごとに本人の聞き取りや身体・心理・暮らしの変化等の情報や意見を得て、ケアプランを作成し、作成後には供覧している。	担当職員が3か月毎にモニタリングチェック表で実施状況を確認した後、ケアマネージャーがその内容を再度確認し、モニタリングに基づいた介護計画の見直しを行っている。本人・家族の意向や医師からの指示なども反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・記録日誌・医療日誌・連絡事項からの情報と分け、日々の記録から様々な情報を得て、職員で情報共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの希望に出来る限り柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染の影響により、自粛していたが、今年度は中学校福祉体験で3名の生徒を受け入れ、行事や活動を一緒に楽しんだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医を継続し、精神科への受診は固定の職員で対応している。主治医との連携に努めている。	多くの入居者は、かかりつけ医に継続して受診している。病院受診は、町内は職員対応で行い町外は家族対応としているが、状況により町外でも職員が対応することが有る。家族対応受診では、バイタルや日常の生活状況の情報を提供し、受診後はその結果の報告を受けている。職員同行の場合でも、家族に報告している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐はないため、かかりつけ医からの助言や指示を受けている。また、必要に応じて定期通院時や電話連絡にて看護師から情報を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、入院情報提供書を作成し、提供している。入院中の状態経過の確認も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で重度化や終末期の意向について伺っている。訪問診療や往診がなく終末期のケアは困難で、早目の変化を察知し、病院受診や搬送の対応を行っている。	契約時に、重度化した場合の対応と看取りは行わないことの説明を行い、了解を得ている。日々の暮らしの中で病状の早期発見に心掛け、対応できなくなるギリギリまで支援している。訪問診療が無いため、早めの病院受診を行っており、状態の変化時には、家族と話し合い対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の急変や事故発生時に備えて、コロナ禍で消防指導の元、心肺蘇生法や応急手当の訓練はできていないが、施設内でマニュアルを用いて訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害を想定した、訓練や避難手段の検討・再確認を行っている。また、町内地域密着サービス事業者で締結を結んでいる。	火災避難訓練を行っており、夜間想定訓練では、地域包括支援センターの職員も参加し、消防署職員2名の立ち合いで行っている。ハザードマップ上での危険地区でないが、12月に土砂災害の避難訓練を行なう予定である。法人内での事業所間協力は、経営者の指示で動くこととしている。	

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、方言を用いて声掛けしている。慣れ合いにならないよう、日々やミーティング時など対応について話し合っている。	馴れ合いにならないように、管理者は言葉遣いが気になる職員と話し合ったり、ミーティングでも話し合い、目上の人として対応することの意識を促している。職員は、利用者を年長者として敬い、名前は「さん」付けで呼んでおり、気持ちに配慮した信頼関係での対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の行動で思いをくみ取り、選択肢の工夫や自己決定できるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の流れは大体決まっているが、離床・臥床・休息・活動など、本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容に加え、床屋さんには定期的に来ていただいている。馴染みのある服を家族に持ってきていただいたり、好みや外出に合わせた服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつ、献立作り、食事作り、片付けなど一緒に行っている。旬の食材・行事食を取り入れ、楽しんで食事が出来るよう心掛けている。	朝食と夕食は、外部業者からの配膳食を活用し、昼食は入居者の手伝いを受け職員が調理や準備・片付けを行っている。食事を楽しむため、家族からの差し入れや旬の食材を取り入れたり、行事の際には店屋物を提供している。コロナ禍で外出ができない中、宮古の「やまびこ館」まで出掛け外食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に気を配り、食べる量にも個人差があるので食器や食事形態も工夫し、栄養バランスにも気をつけ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や食物残差に気を付け対応している。		

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンの把握をしている。早めの排泄促し、誘導を行い、トイレでの排泄やオムツ着用者の方でもポータブルトイレで排泄出来るよう支援している。	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握している。トイレへの早めの声掛けで誘導を行い、オムツ利用者でも便意が有れば、介助を受けながらポータブルトイレを利用している。排泄時の声掛けなど、排泄に関係しないことで声を掛けたり、本人の体調を気遣いながら、羞恥心や不安感を軽減するよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操や運動の機会を確保し、毎朝、牛乳や飲むヨーグルトの提供や野菜を多く取り入れた食事の提供をし便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通院・行事等で曜日や時間帯が変更になる事もあるが、週2～3回の入浴が出来るようにし、入浴時間・介助方法も一人ひとりに合わせ支援している。	週に2、3回入浴できるように午後の時間帯を充てているが、全介助の入居者は午前としている。入居者の好み(温度や入浴時間)を聞き、その都度対応している。入浴は、状態に応じ背中流しや洗髪、見守りなどを行っており、楽しみ事の話や昔話などを話しながら入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて、いつでも居室で休息出来るようにしている。室温・湿度・掛物の調節を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録・処方箋・薬内容・副作用等ファイルに綴り把握し、変更時等も確認出来るようにしている。個々に名入れや一包化し服薬・確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話で楽しみ事、得意とする事を取り入れ、食事準備・片付け・軽作業等の役割を持ち、行事や季節の装飾作り等で楽しく過ごして頂ける様支援している。		

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において思うように戸外には出掛ける事はなかったが、状況を見て、車内から出ないドライブや自宅への外出・秋には紅葉ドライブへ出掛け外食を行ってきた。	天気の良い日には、デッキに出て外気に触れている。コロナ禍で外出を控えているが、自宅や出身地の神社のお祭りを見に行くなど、本人の思いに沿った場所へ外出している。ドライブでは、春に町内の「家族旅行村」に出掛け、秋には「道の駅釜石仙人峠」や宮古の「やまびこ館」に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の方針として、お金を持つことはしていない。入所者の中でも、お金を所有している方もいるが、施設・家族も了承している。孫のお小遣い・プレゼント購入など希望に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	個人で携帯電話を所有している方もいるし、家族から荷物が届いた際には電話を掛けたり、年賀状を書いて出したりと支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、ホールで過ごす入所者も多く、季節感を感じられる装飾を手作りしたりと工夫している。また、居室・トイレ・浴室にもわかりやすく表示し、施設内の温度・湿度の調整も行っている。	入居者の機能を考え、壁の色は明るく、空間はコンパクトにしている。室温や湿度はエアコンや加湿器で管理し、居室やトイレ・浴室の表示は立体的に見やすくしている。クリーム色の壁には、利用者と職員が一緒に作成した、ツリーや干支の虎などの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は決まっているが、ソファーや畳にも座ったり、会話や作業をすることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持参して頂いたり、家族写真や本人が作った装飾を飾ったりと居心地良く、過ごせるよう工夫している。	入居者は、自分で作った服など使い慣れた物を持参している。入居時に、本人と話しながらベッドや筆筒の位置を決め、家族写真や本人が作った装飾を飾ったりしている。日記を書いている入居者は、今までの日記を一つの入れ物に入れ、日記を書いたり読んだりしやすいようにしている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、居室・浴室・トイレ等、各入口に分かりやすい様に表示し、各所にも手摺の設置を行い、安全な生活が送れるよう工夫している。		